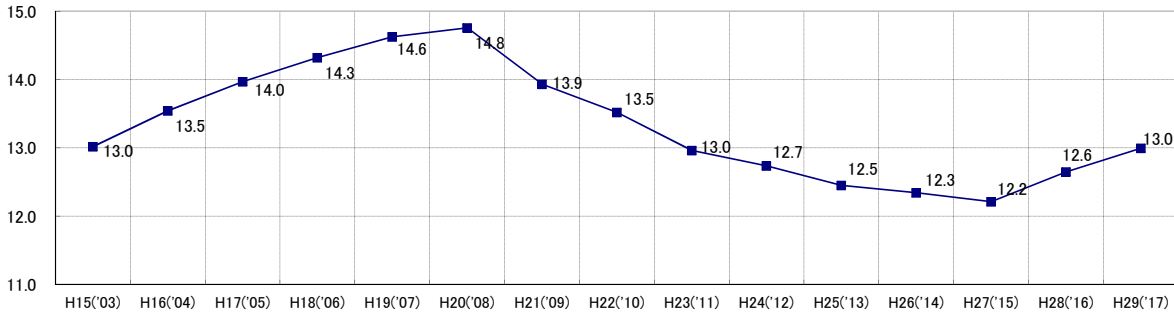


入試状況はどう変化したかー2017年私立中学受験状況

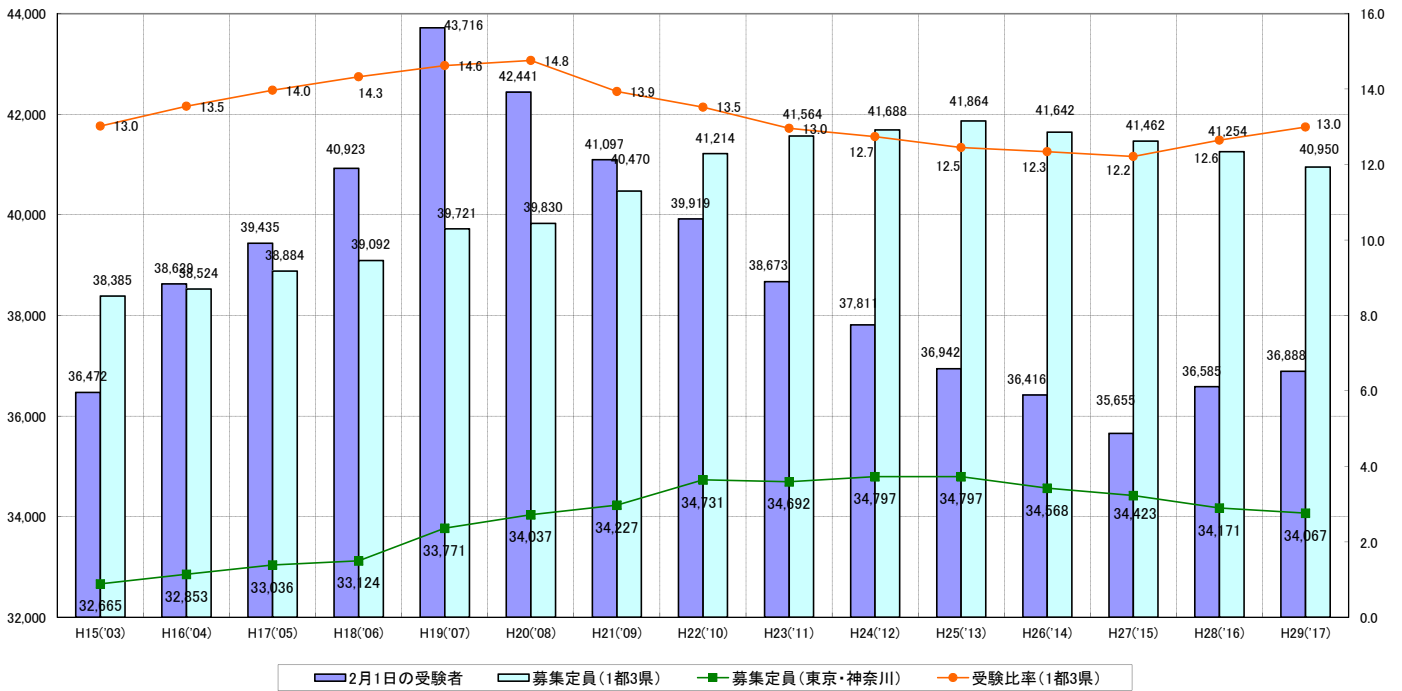
2017年3月6日確定値

中学受験比率

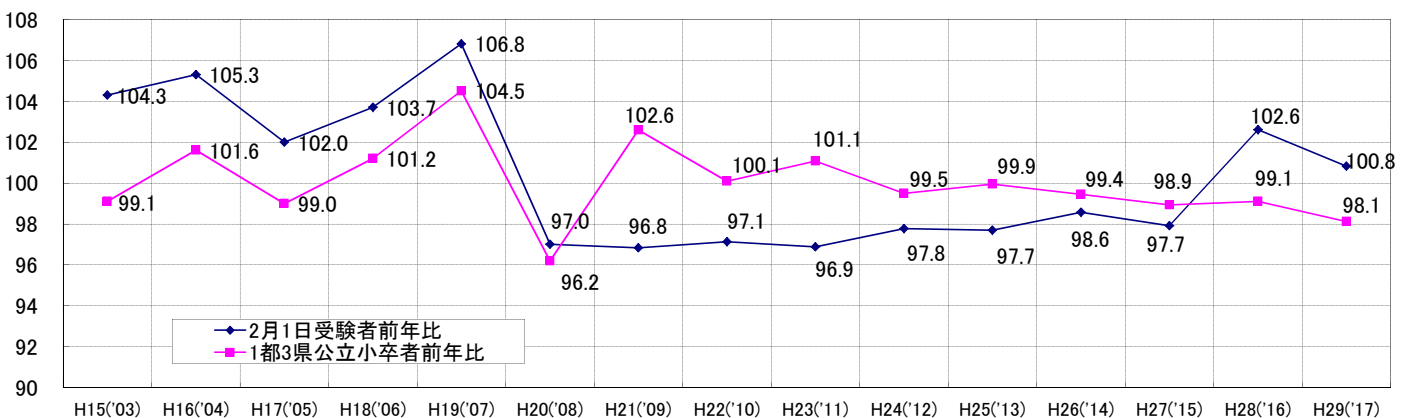
(2月1日受験者数÷一都三県公立小学卒生×100)



2月1日 私立受験者数の推移と募集定員及び受験率



2月1日受験者・公立小卒者(1都3県)対前年比較



森上教育研究所調べ

2017年一都三県中学入試 受験者数-0.8%の増 受験率は13%(昨年12.6%)

2017年中学受験の受験者数を東京・神奈川の中学が入試を始める2月1日(午前)の実受験者数で示した場合、今年の実受験者数は36,888名となり、昨年より約300名増で、受験率(公立小在籍者を分母にし前記実受験者数を分子にして算出)も13%と昨年の12.6%を上回った(公立6生が昨年比2%減少していることが大きい)。

来年入試は人口増もあり、受験者数は増加すると思われるが、募集定員より実受験者数が少ない現状は変わらないので、倍率面での大きな変化はないと思われる。

ただ、共学校の倍率は中上位校で3~4倍台で高止まりしている一方で、男子校、女子校の倍率は、2倍前後で多くの学校が推移しており、青山学院横浜英和や八雲学園の共学化を始め、来年以降に一層の共学校化が進むと予想される。